

生物多様性 **ながれやま** 戦略

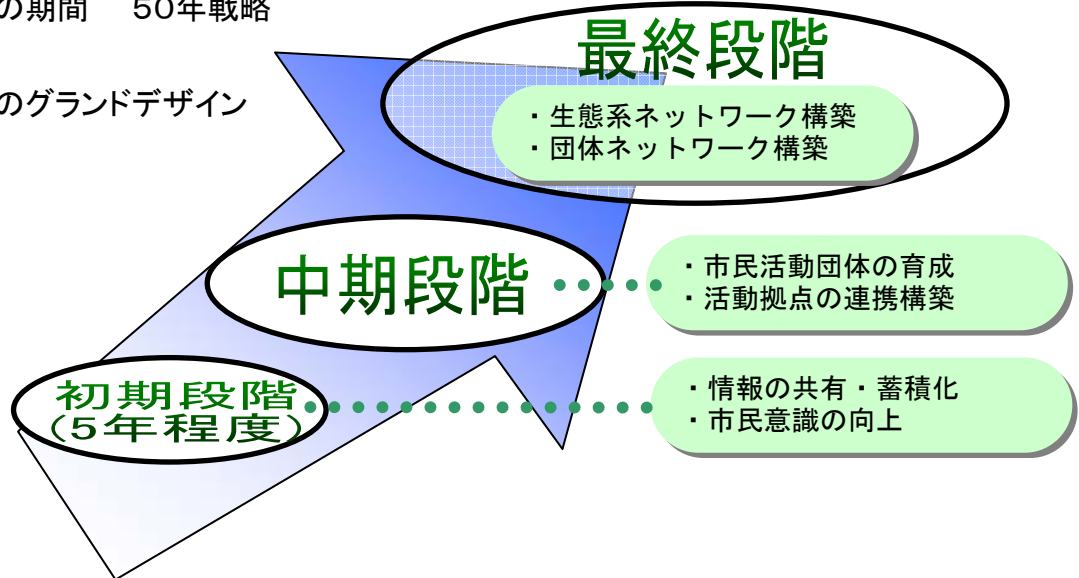
オオタカがすむ森のまちを子どもたちの未来へ

基本的事項

■戦略の目標 多くの生きものが生息・生育する多様な環境
～水と緑の回廊と地域の生態系ネットワークの構築～

■戦略の期間 50年戦略

■戦略のグランドデザイン



基本方針と取組の基本的な方向性

1. 生物多様性の保全・回復

- ① 生態系ネットワークの構築
重要地域の保全、生態系ネットワークの維持と形成、水循環の再生
- ② 人の関わりによる谷津・湧水などの保全・再生
谷津・湧水の保全・再生
- ③ 野生動植物の保護と管理
希少野生動植物の保護、外来種対策、地域開発と生物多様性の調和
- ④ 地球温暖化・ヒートアイランド現象による影響の調査
生物多様性への影響調査

2. 生物多様性の価値の持続可能な利用

- ① 地域の持続可能な発展における生物多様性への配慮
企業活動における生物多様性への配慮の促進、企業活動における生物資源の利活用
- ② 緑の多面的機能の活用
農業における取組、都市の緑に関する取組

3. 環境教育・環境学習機会の創出

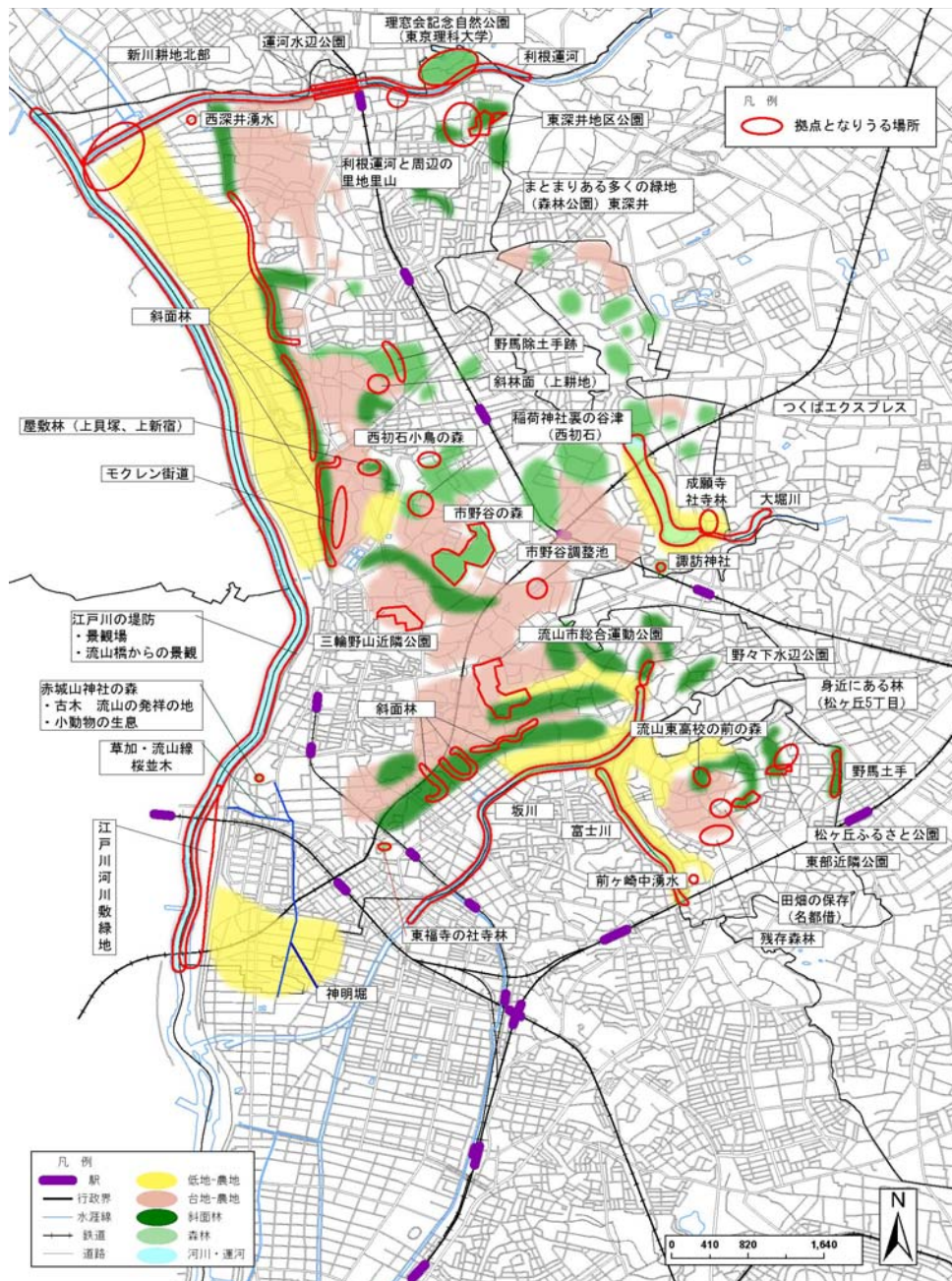
- ① 意識の醸成
自然とのふれあいの増進、環境学習・普及啓発の推進、ライフスタイルの転換の促進
- ② 参加・協働の充実
自発的な保全活動の支援、事業者の社会貢献活動の促進

4. 基盤情報の整備・充実

- ① 調査研究の整備・充実
生物モニタリング調査の実施、情報の蓄積、情報発信基地の整備



重点地区・拠点となりうる場所

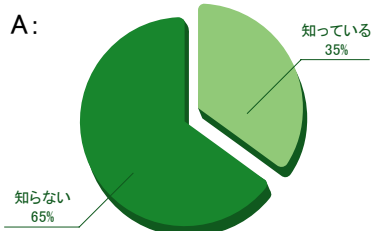


重点地区・拠点となりうる場所

■ 市民アンケートより

(調査時期:平成 21 年 5 月中旬～下旬)

Q: 生物多様性という言葉を知っていますか



将来残したい場所ベスト3

1. 利根運河
2. 流山市総合運動公園
3. 市野谷の森(おたかの森)

代表的な野生生物ベスト3

1. オオタカ
2. キジ
3. タヌキ



重点プロジェクト

生物多様性の保全・回復に関し優先的に取組を進める『重点地区・拠点』を選定し、取組や活動を進めるための重点プロジェクトを設定

動植物の生息・生育環境の分布の把握



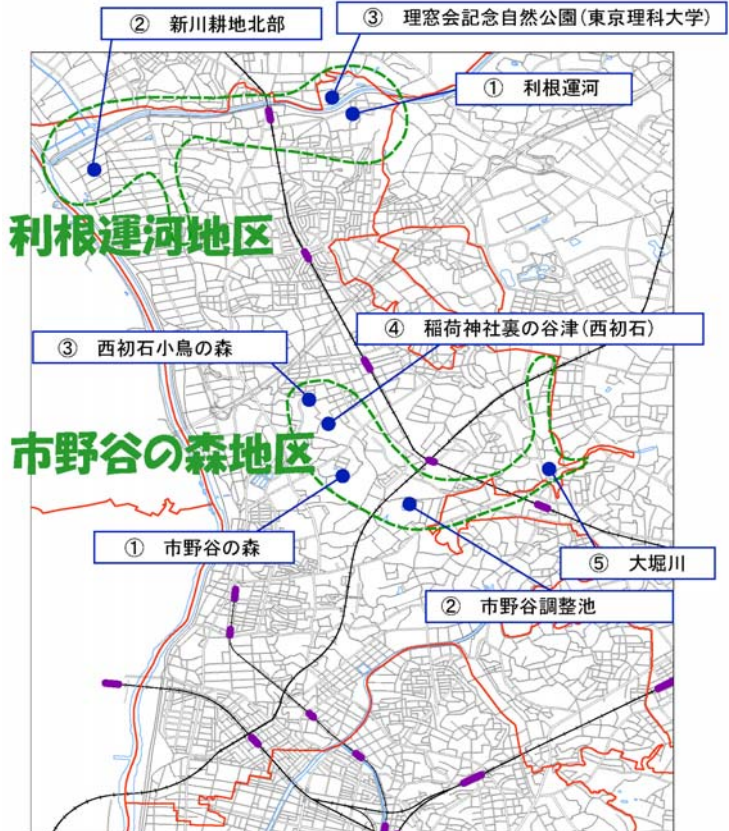
重点地区・拠点となりうる場所の抽出



重点地区・拠点の選定

■市野谷の森地区

- ① 市野谷の森
 - A モニタリング調査の実施
 - B 観察センターの設置等
 - C 生物多様性アドバイザーの登録制度
 - D 森林による周辺温度上昇抑制効果調査結果の分析
- ② 市野谷調整池
 - A セイタカシギの生態調査の実施
 - B モニタリング調査の実施
 - C 都市再生機構との連携
- ③ 西初石小鳥の森
 - A モニタリング調査
 - B 小学校・中学校・高等学校と市民環境団体等の連携
- ④ 稲荷神社裏の谷津(西初石)
 - A モニタリング調査の実施
 - B 自然環境の再生・整備
- ⑤ 大堀川
 - A モニタリング調査の実施
 - B 千葉県や流域自治体との連携
 - C 関係機関等との連携
 - D 大堀川再生事業
 - E 水環境の改善



重点地区・拠点

■利根運河地区

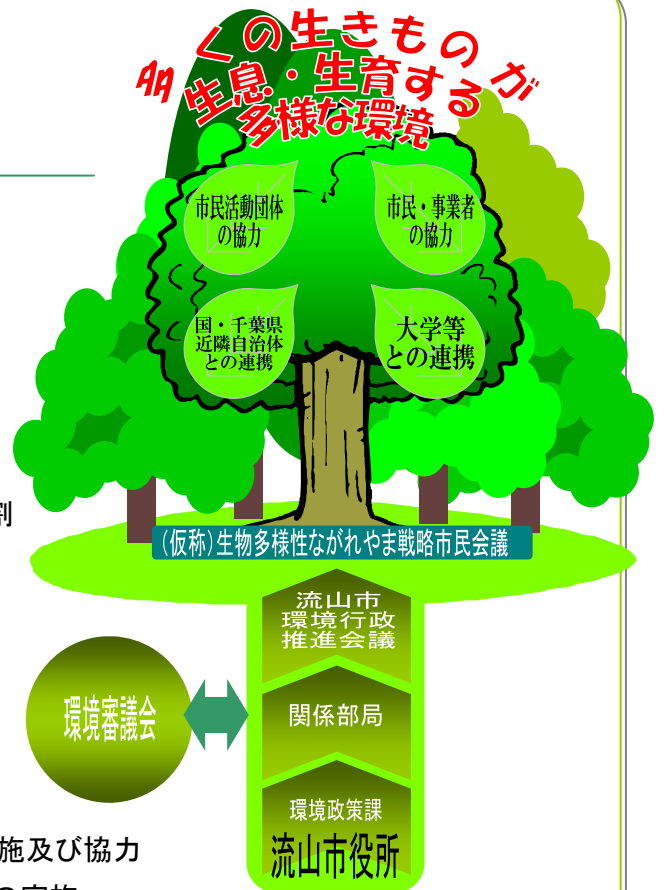
- ① 利根運河
 - A モニタリング調査の実施
 - B 環境学習の場の拠点づくり
 - C 生物多様性アドバイザーの登録制度
 - D 水環境の改善(水質保全対策)
 - E レンタサイクルネットワークの整備
 - F 利根運河協議会への参画
- ② 新川耕地北部
 - A モニタリング調査の実施
 - B ヨシゴイの生態調査・保護
 - C 利根運河協議会への参画
 - D 事業者や農業者との連携
- ③ 理窓会記念自然公園(東京理科大)
 - A モニタリング調査の実施
 - B 水環境の改善(水質保全対策)
 - C 利根運河協議会への参画
 - D 東京理科大学との連携



推進体制・進行管理

■ 推進体制

- ① (仮称)生物多様性ながれやま戦略市民会議
- ② 市の役割
 - ア 庁内での推進体制の整備
 - イ 国・県・近隣自治体との連携体制の構築
- ③ 市民・事業者、市民活動団体・大学等に期待する役割
 - ア 市民に期待する役割
 - 環境保全活動への参加
 - イ 事業者に期待する役割
 - 環境配慮型事業の展開
 - 環境保全活動への協力
 - ウ 市民活動団体・大学等に期待する役割
 - 重点地区における動植物のモニタリング調査の実施及び協力
 - 地球温暖化・ヒートアイランド現象による影響調査の実施



■ 進行管理

- ① 市が導入している環境マネジメントシステムで行う。

評価指標

率取的取組の概要	指標	目標
モニタリング調査の実施	モニタリング調査の実施	重点地区のモニタリング調査を5年以内に終了
都市の緑の保全・再生・整備	都市計画区域の緑地確保	平成31年度までに226ha増加(平成15年度比)
生物多様性に関する情報の公開の場の創出	生物多様性シンポジウムなどの開催回数	年1回以上開催
環境学習センターの設置	環境学習センターの設置	5年以内整備

- ② 環境白書への掲載

- ③ 見直し

モニタリング調査の結果を踏まえ、当初は5年後に見直しを行う。
その後は、概ね10年ごとに行う。

連絡先

流山市環境部環境政策課 環境政策係

TEL : 04-7150-6083

E-mail : kankyuhosen@city.nagareyama.chiba.jp

